



球技大会

先日、「森公美子コンサート」に出かけました。「観客の皆さんに楽しんでいただきたい。」という森さんの優しい思いが、随所に現れた、気持ちのいいコンサートでした。

その中の語りで「私、父親が亡くなつたとき、『今まで生まれ変わってきたら、また仲良くしましようね。』と誓つたんですよ。でもよく考えてみると誰が父の生まれかわりか分からんんですよね。だから私は、誰とでも仲良くしよう」と決めているんです。」

短い時間での話でしたが、何かしら心が温かくなる思いになりました。父親の死に接し、乗り越えたからこそこの言葉であつたと思います。

「修羅場やどん底を味わつた人は強い」と言われます。つらさを乗り越えて初めて「真の喜び」が味わえるように、頭で理解しても体験が伴わないと気づかず、正しく判断できず、人に優しくできないものです。「価値ある体験をいかにさせるか」我々親の責任だと思います。

(文責 加藤繁樹)

**加茂高春秋**

# PTA会長挨拶



PTA会長  
山田 栄

## PTA会長としての決意

創立以来半世紀余の歴史を持ち、日本の各方面で活躍する多くの人物を送り出された伝統ある母校のPTA会長を引き受けることになり、責任の重さを痛感しております。

我が国は二十世紀は激動の中、世界で有数の豊かな国に発展してきましたが、日本を取り巻く経済状況は大変厳しく、バブルが崩壊し社会不安が続く中、種々の改革が取り組まれております。



私達PTAは学校、地域と手を取り合つと共に、会員の連携を密にし、自主的に活発な事業を進めたいと思います。子供たちの「志」の実現の為の活動ですので会員の皆様の協力よろしくお願いします。

教育においては、来年度より完全学校週五日制となり、学校での学習はもちろんのこと、家庭での教育の在り方がより重要になります。又親子間の交流は当然の事、家庭と学校、学校と地域との連携を密にして子供達が伸び伸びと教育を受けられる体制を整えていかねばなりません。

PTA会計  
渡辺みちる

PTA会計  
林 幸利

PTA副会長  
宮崎ふみ子

PTA副会長  
細野幸男

PTA副会長  
井上行正

PTA副会長  
横幕公司



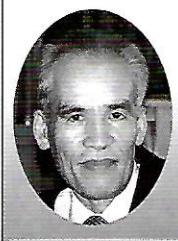
五組池村（理科）	十組酒瀬川（数学）	副草薙（国語）	主任高寺（数学）
四組長谷部（国語）	九組丸山（国語）	副間宮（公民）	副佐藤（体育）
三組山田（体育）	八組長沼（理科）	副松野（数学）	副藤守（音楽）
二組井上（英語）	七組井戸（英語）	副横山（体育）	副布山（美術）
一組渡辺（数学）	六組水野（数学）	副太田（英語）	副大江（英語）

# 一年生 担任紹介



# 鯉のぼり

学校長 岩田孝志



この四月十日の対面式に生徒会執行部が新入生と校庭に鯉のぼりを揚げてくれました。

加茂高に、親子三匹の鯉のぼりが、揺らいだ。

『屋根より高い鯉のぼり』

大きな真鯉はお父さん  
小さい緋鯉は子供たち  
おもしろそうに泳いでる』

親鯉と子供の鯉がいかにも楽しそうに泳いでいる。五月の空に鯉を泳がせ、子供の成長と出世を願う。なんともすばらしい先人の発想ですね。

鯉のぼりは、激しい滝を昇った鯉は龍になるという中国の故事に由来するものであります。それに父さん鯉や母さん鯉を添え、家族の好ましいあり方も加えました。青い空と、新緑を背景に泳ぐ鯉の姿に、家族の団らんと温もりがごく自然に伝わってきます。

少し前まで日本の町や村にはいたる所、競うように鯉のぼりが揚がっていました。が、最近では、村でさえすっかり珍しくなってし

まいました。

ここにも、今の日本の家庭の心の貧しさが現れています。

鯉のぼりが少なくなつてしまった時期と、核家族が始まつたのとは時を同じく

しているようです。因習と束縛のあつた古い家族制度からの脱出は、新所帯の気楽で気ままな「自由」こそ得ましたが、逆に豊かな心の遺産を失つたのではないでしようか。

から脱出は、新所帯の気楽で気ままな「自由」こそ得ましたが、逆に豊かな心の遺産を失つたのではないでしようか。

今、心の問題が大きく取扱われていますが、夫婦にゆとりのない核家族で、豊かな心を養うのには限界があると思います。子供たちは「しつけ」や心の発達における爺ちゃん婆ちゃんの役割は極めて大きなものがあつたのではないかと感じます。

豊かな心を養うには限界があると思います。子供たちは「しつけ」や心の発達における爺ちゃん婆ちゃんの役割は極めて大きなものがあつたのではないかと感じます。

鯉を渡しました。中庭には赤や青の色とりどりの鯉が横一列に並んで泳いでいます。

ところで、「連鯉」を「連恋」と掛けてみるとなかなか味なことになりますね。

青春時代に、人を恋することができることも大切なことで、若者にはいつか真実の恋愛をしてもらいたいと思っています。

由良の門を渡る舟人

かぢを絶え

恋の道かな(百人一首)

行くへも知らぬ

恋の行くへは流れの複雑

人生いかに生くべきか。

豊かな心を養うのには限界

人生いかに生くべきか。

保護者の皆様には、平素より本校の教育活動にご支援とご協力をいただき、厚くお礼申します。

ところで地域の中心校・伝統校には教育改革の動きとは別の、課せられた不動の役割があります。

高の生徒には、それは表面的には進学の実績という形をとるかもしれません、実は次

があるよう思います。加茂

マンモス校としてスタートし

たことは特筆すべきことであ

ります。

さて、ここ数年来、教育改

革の大号令のもと、教育の見直しが行われてきました。そ

の要点は「ゆとり」のなかで

「特色ある教育」を展開し、

生徒が自ら学び自ら考える「生

きの力」を育成することであ

ります。本校においてもまも

なく総合的な学習の時間が始

まりますし、加えて岐阜県で

は農業体験やインターンシッ

プ(就労体験)の早期実施も

強く求められております。こ

れらはすべて、地域社会との連携や、地域の教育力の活用

なくしては実施できること

ばかりであります。改めて地

# 加茂高教育の役割

教頭(定) 小池邦夫



域の皆様と保護者の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

ところで地域の中心校・伝統校には教育改革の動きとは別の、課せられた不動の役割があります。

高の生徒には、それは表面的には進学の実績という形をとるかもしれません、実は次

があるよう思います。加茂

マンモス校としてスタートし

たことは特筆すべきことであ

ります。

さて、ここ数年来、教育改

革の大号令のもと、教育の見

直しが行われてきました。そ

の要点は「ゆとり」のなかで

「特色ある教育」を展開し、

生徒が自ら学び自ら考える「生

きの力」を育成することであ

ります。本校においてもまも

なく総合的な学習の時間が始

まりますし、加えて岐阜県で

は農業体験やインターンシッ

プ(就労体験)の早期実施も

強く求められております。こ

れらはすべて、地域社会との連携や、地域の教育力の活用

なくしては実施できること

ばかりであります。改めて地

卒業生の声

後輩へ  
卒業生 本多貴子  
Message

新入生の声

加茂高の生活

大澤  
恆

私は大学生になんて思ふことは、「高校生の時が一番楽しかった。」ってことかな。部活をやるにも、勉強に励むにも、また自分の好きなことをやるにも一番自分が伸ばせる時だと思う。私は勉強が嫌いだつたし、校則とか面倒くさかったし、さぼるのが好きだったけれど部活は頑張った。あと、友達といっぱい遊んだ。私はとつて高校の友達は今でもとつても大切なものだから。自分が高校時代で何を大切にするかは、人それぞれだと思う。だから、自分が楽しいと思えることを一生懸命やればいいんじやないかな。後になつて後悔しないで、なればそれでいいと思う。だから高校生活を楽しすぎないと、あつという間に終わっちゃうから。自分が打ち込めるものや、大切にするものがあればきっと高校生生活を楽しめるよ。

きっと楽しいことばつかじやないけど、加茂高に入つてよかつたつて思えるよう頑張つて下さい。

三年生は、進路決定、部活動など悩むことが多いなってくる頃だと思います。しかし、全てにおいて、他人と比べるのではなく、以前の自分と比べることが大切と感じています。自己を見つめ、視野を広げ、違った角度からまわりをみると新しい発見ができると思います。何か一つの事に向かって人と一生懸命になれるのは、今しかないような気がします。きっと一生の中で自分にとつてかけがえのない思い出になるはず。決して自己満足で終わってはダメだけれど、今の頑張りが無駄になるわけではないと思う。

ビューティフルライフ 福田慧子

やんや、親戚に電話で合格発表の日、おじいちゃんの報告をした。みんなから祝福され、いとこからは、「高校が一番楽しい事があるから、いい思い出作れるといいね。」と言われ、少し期待もしていた。でも今、「高校樂しい?」と聞かれても、元気よく返事が出来ない。正直言って、今の私の生活の中で楽しい事と言えば、部活動や友達としゃべりながらお弁当を食べることぐらいである。でも、この生活が楽しくなるようにと待つていても、変化はしない。勉強と同じで、誰かが教えてくれるのを待っているのではなく、自分から積極的に教えてもらひに行かないといふからないままである。だから、加茂高の生活にも慣れ、クラスの人達と仲良くなってきた今、本当に高校生活が楽しいと言えるような環境を自分達の力で作り、文武ともに高いレベルを目指して頑張れるといいと思う。

加茂高校に入学して、二ヶ月が過ぎました。入学したてのころは、休み時間や、昼食の時間になると、他のクラスの友達の所へ行く人が多かつたけれど、今ではクラスにも慣れたせいか、廊下にいる人も少なくなりました。生活も安定してきましたし、部活も6月からは先輩と最後までやるようになつて、ようやく高校生らしくなつてきました。



## 親からの声

【出逢い】

岩腰留美子

高校生活が始まり、二か月が経ちます。中学校生活の思い出に浸ることも、少しずつ減ってきたようと思われる今日この頃。新しい友達の名前を耳にするようになりました。

高校進学と同時に購入した携帯電話も、生活の一部であり、肌身離さず持ち歩いている姿は、どこの家庭でも同じだと思います。全ての用件が携帯電話で済んでしまうと言つても過言ではない程、子供達は携帯電話を使いこなしています。こんな中では、友達関係も親には見えてきません。今では『メール友』という言葉も、流行語のひとつ?となつていています。これも、時代の流れなのでしょう。

形はどんな形であつてもいいけれど、多くの人との『出会い』の中で、自分自身も支えられているということを忘れず、人として温かい心を持ち続けてくれるよう願っています。

メールマガジン

松井仁司

今の高校生の一番の必需品は、携帯電話といつても良いかもしれません。今年加茂高校

に入学した長男も、携帯を手放せない毎日だ。

電話だから話すのが多いかと思いきや、ほとんどメールでやり取りばかりである。メールの内容は、友人同士の普段のおしゃべりと同じような感覚だ。

このメール機能をもつと学生生活に有効に使つてはどうだろう。

無料で発行されているメルマガジンの中には、音楽や映画・懸賞情報の他にも、利用価値の高いものが色々とある。例えば、「まぐまぐ」や「メルマ」には、英単語の意味と使い方を毎日一つずつ解説した学習情報もある。そこには数学や古典、地理歴史その他いろいろそろっている。

携帯画面の関係上、毎日の情報量は少ないが、3年間続けるれば結構役に立つと思うが、根気のある方お試しあれ。

高校生活に望むこと

木村満里子  
高校生活に望むこと

自分の高校時代を振り返りながら、何を書こうかと考えてみると、自分が高校の三年間でやり残してきた事を、我が子には、やりとげてほしいという思いがあります。

加茂高校生の親になつて

小森恵津子

「明朗、進取、誠実、努力、親愛、奉仕」学年通信を見て

こんなに並べて意味が分かるのかなと主人が一言。新しい

学校、新しい友達、慣れない

授業に、わが子は熱を出してしまいました。学校から帰ると、宿題が多くて寝ることもできず、部活も始まりクタクタです。「体を壊してまでやることはないよ」と言つては

やりますが、「文武両道」とは、なかなかきつそうです。

三年間、挫折することなく、続けることに意義があると思

います。体力・精神力・忍耐力、そして、友人など得るもののが、いっぱいあることでしょう。高校の三年間で、生涯の友人を一人でも多くつくつ

て下さい。

もう一つは、学生の本分である勉強。

自分の進みた方向をみつけ、妥協することなく最後まで努力してほしいと思います。今

がよければいいという、安易な考え方で、現実から逃げてしまいがちです。将来をしっかりと考へ、最後まであきらめないで、やってみて下さい。

自分ができなかつた事なので、説得力に欠けますが、二十年以上たつた今も、反省している大人の意見として、参考にしてほしいものです。

がんばりんさい

角田博信

今年、娘が加茂高へ入学してボート部に入った。毎日疲れて帰ってきて、追試があるからどうのこうのと言ひながら結局とりあえず寝ている。

その昔、そんな高校生活も

いいかなと思いつつ、非凡な道を求めて高専に進んだ私に

とつて、娘の今の生活は何となく羨ましい気がする。

しかし、加茂高といえば名立たる進学校。たぶんからう

じて入学できた程度の娘には、

難儀な高校生活となることで

あろう。自由奔放な環境をい

いことに、勉強そっちのけで

バイクにのめり込んでアルバ

イト生活を送っていた私には、



は何もないかもしれない。せ

いぜい、行き詰った時の身の振り方くらいしか教えることはできないであろう……。

人間、価値観は人それぞれ

かちなだけでは社会で通用し

でいいと思つています。人

は勉強だけではありません。子どもの能

力をあつた道を、自分で探し、

自分の足で歩いて行ければそ

れでいいと思つています。人

は勉強だけではありません。子ども

の足で歩いて行けばそれ

で何とも言えないが、頭でつ

かないので、とにかくこの三年

間は勉強に部活にやれるだけ

やつて、よりよい人間関係を築いてほしい。

特集  
～少年犯罪を考える～

## 少年の問題行動の背景と対応 生徒指導主事 坂井 仁

最近の少年の問題行動の状況は、警察庁調べの下図のように、戦後第4の波を迎えていると言えます。特に、「五千万円恐喝」、「バス乗つ取り死傷」、「高3バットで母親撲殺」、「高1近所の一家をナイフで死傷」などその意図が理解しにくい事件が多発したことはご承知のことだと思います。それらの非行少年の特徴として、「少年の問題行動等に関する調査研究協力者会議」（県教委）から出された報告の中では次のように言われています。

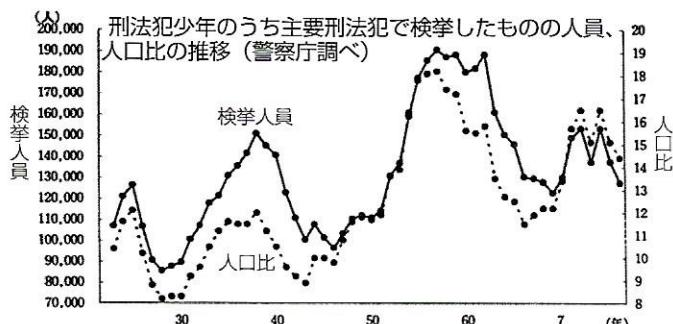
①自己中心的な価値観を持ち、被害者に対する贖罪感や規範意識が低い。

②劣等感が強く、自尊感情を持てない。

③刹那的で感情のコントロールが苦手、相手の痛みが理解できない。

④コミュニケーション能力が低く、対人関係がうまく結べない。

⑤高校生にあつては、いつまでも中学時代の関係を引きずり新しい環境に適応で



(注1) 人口比とは、同年齢層の人口1,000人当たりの検挙人員をいう。  
(注2) 主要刑法犯とは、刑法犯のうち凶悪犯（殺人、強盗、放火、強姦）、粗暴犯（暴行、傷害、脅迫、恐喝）、窃盗、知能犯（詐欺、横領）風俗犯（賭博、わいせつ）及び占有離脱物横領をいい、全刑法犯から、業務上過失傷害（交通関係など）、偽造、汚職、背任、凶器準備集合などを除いたもの。

までの児童生徒の47%が否定的な回答をしたり、「小さなことでイライラすることが多い」「ひどく怒ったり乱暴をしてしまうことがある」の質問に対しても、それ35%、26%の者が肯定的な回答をしているというのです。このあたりにも、学校の教育活動全体を通じ社会性や人間関係を築く力を身に付けさせる必要性、また、家庭においては基本的な生活習慣や社会におけるマナー、善惡の判断などの倫理観や思いやりといった事柄を幼児期からきちっと身に付けさせることの重要性を改めて感じます。

・大人の規範意識の低下や子どもを取りまく環境悪化に歯止めをかける。

少年の規範意識の低下の背景には、そもそも大人のモラルや地域社会の教育力の低下に加え、携帯電話やインターネットなどでの有害・劣悪情報の氾濫などもあげられています。科学警察研究所からの「最近の少年犯罪状況調査報告書」でも対象少年の半数以上にホラービデオ、猟奇ものや武器関係の書籍等が犯行に影響を及ぼしたと考

えられる、との分析があります。関係業界への働きかけや、健全育成に資する情報化に向けての新しい動き等が望まれています。

- ・「躾」を父親、母親がともにできる家庭の状況づくり。

過保護や過干渉、放任、都市化・核家族化・少子化の進展により、子育ての情報が不足し育児不安に悩む親の増加など、家庭の教育力に問題を抱える家庭が多くなっています。また、母親に子育ての負担がかかりすぎ適切な相談相手がないない状況、父親の威厳喪失、不在の問題等においてもその対応の必要性を感じています。PTA地区懇談会や各種連絡会・研修会などの場でそれらが活発に論議され、お互いが学ぶ機会となればと考えます。

- ・「心」の問題への対応を社会全体で行う。

前述の科学警察研究所による調査報告においても、対象少年の全てに、過去に孤立経験や対人不適応などの背景事象が存在したとあります。心の健康（メンタルヘルス）面のサイン、すなわち、抑圧、不安、煩悶などの情緒的混乱にいち早く気づき、適切な対処を行う必要があつたということ

等を気軽に相談できるようになります。生徒や保護者が悩みにし、家庭や地域社会、カウンセラーや機関とともに早期にキャッチして、心の揺れや悩み、不安等を柔らかく受け止めるといった体制づくりが望されます。

### 情報連携から行動連携へ

今後は、これらの取り組みが、単なる情報を交換する連携にとどまらず、行動を共にできる連携が可能になるようにしていくことが大切です。そのためのネットワーク形成や様々なサポートチームの組織化、マニュアルづくり等をPTAの皆様とともにすすめていきたいと考えています。

問題行動の未然防止、心の教育、交通安全教育、性の教育等々、この国が抱えている教育上の問題は同時に加茂高校への警告でもあるという認識に立って、学校長を中心とする指導体制を一層充実させて、生徒、保護者の皆様の「しあわせ」づくりに少しでも役立つことをできればと考えています。

